

青森県中南地区の小学校教師を対象とした総合的な学習の時間の意識調査

—実践上の課題および児童の変容等—

渋川良夫 尾上町立金田小学校

要 旨

総合的な学習の時間についての中南地区の教師の意識調査の結果から、多くの教師は総合的な学習の時間を好意的に捉えており、今後も積極的に取り組みたいと考えている。また、実践によって、教師自身の変容が認められ、子どもも活動意欲の増加等から変容が認められる。実践上の課題については、「予算的な面」や「人材の確保」、「準備時間の確保」等を挙げている。テーマについては、「地域・郷土」を中心に取り組んでいる割合が高く地域を生かした学習が行われており、子どもに高めさせたい資質や能力では、問題解決力・発見力がある。中南地区では、地域資源を活用し特色ある学校づくりが行われている。

【キーワード】 総合的な学習の時間 地域教材 教師の意識

1 はじめに

生きる力を育成するために創設された総合的な学習の時間（以下総合的な学習）は、教育内容に学習指導要領のしびりがない。この時間を通して、地域に根ざした特色ある学校づくりをすることが要請されており、年間105時間から年間110時間にも及ぶ授業時間を教育課程に置くことが可能になっている。

本時間は、平成12年度からの移行期間に引き続き平成14年度から全面実施になった。総合的な学習の教育内容は各学校の創意工夫に任されており、基礎・基本の徹底も総合的な学習のねらいの一つである。しかし、総合的な学習においては、子どもの主体性を重視するあまり「生きる力」を育成する本来の教育効果が上がっていないことを指摘する報道も見られる¹⁾。(日本経済新聞 2003年9月18日)。

青森県津軽地方の中心部にある中南地区*は米作、りんごの農産物に恵まれ、岩木山、岩木川、白神山地の自然に恵まれている。著者は同地区にある、尾上町立金田小学校と平賀町立柏木小学校の地域教材を用いた授業を展開し、児童と教師を対象に総合的な学習に関して、好嫌度等の意識調査を実施した。その結果、学習形態により違いがあるが、地域教材が2つの学校において効果的に取り上げられており、子どもたちはそれぞれ興味関心をもって学習していることが認められた²⁾。

また、中南・西北地区の全小中学校の教師を対象とした最近の意識調査³⁾では、地域資源を利用した授業の結果、子どもは変わったと回答を得ている。どのように変わったかという問いに対して、「地域について学ぶことについて意欲と関心が高まった」、「自ら学ぶ意欲が高まった」、「他者に対する関心が高まった」が多かった。また、体験学習についての子どもの関心・態度の変容の程度は、「参加する・熱心に取り組む」と認識する割合が最も高かった。金井達蔵⁴⁾は、興味・関心のレベルを気づく等の前提的な変容、聴き入る等の基礎的な変容、追究する等の発展的な変容の3段階に分けており、上の結果は基礎的な態度変容を示していることが認められた。このように、中南・西北地区の学校は概ね地域資源を有効に活用し本来の理念に沿った学習が展開されている可能性が示唆されている。

本研究では、尾上町立金田小学校と平賀町立柏木小学校²⁾の調査結果を踏まえて、この2

* 中南地区 弘前市、黒石市、中津軽郡、南津軽郡の13市町村を含んだ地区。

つの学校を含む中南地区の国公立の全ての小学校を対象にして総合的な学習に関する意識調査を実施し、同地区の小学校が総合的な学習の時間にどのように取り組んでいるのか、また、どんな課題を抱えているのかを検討したい。その目的のために、第一に、教師の総合的な学習についての好嫌度や積極度を分析する。第二には、教師が総合的な学習に取り組む中で、どのような困難な点や課題があるかを分析する。第三には、総合的な学習を授業実践して、子どもたち及び教師自身にどのような態度の変容があったかを検討する。第四には、総合的な学習の活動で採り上げられているテーマを分析する。第五には、総合的な学習で子どもに高めさせたい資質や能力及び実践上の課題を分析する。

2 研究の方法

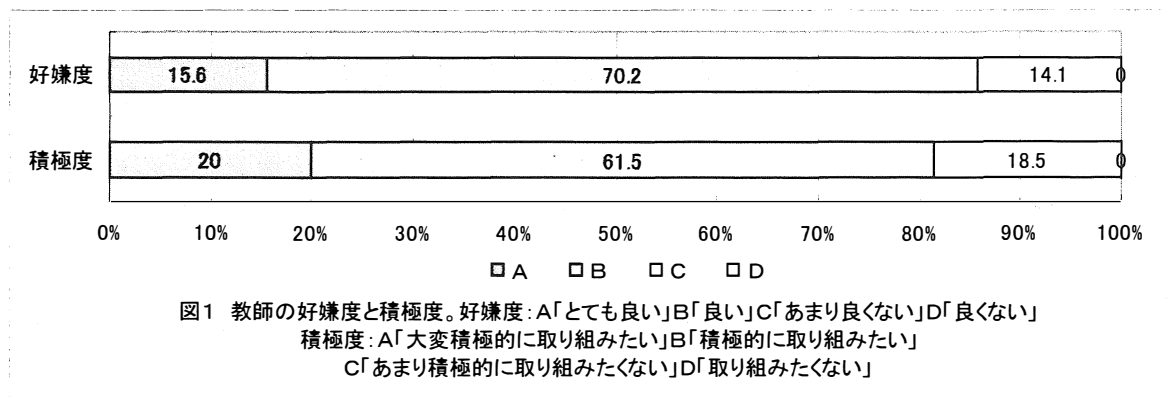
調査は2003年11月上旬から下旬にかけて質問紙郵送留置法によって行った。質問紙を、弘前市、黒石市、中津軽郡、南津軽郡（以下中南地区）にある国公立の小学校80校に、校長宛で一部ずつ配布した。回収率は、弘前市79.8%、黒石市66.7%、中津軽郡100%、南津軽郡93.1%で全体で83.8%であった。

回答者の年代は、20代1名（全回答者に対する割合1.5%以下同じ）、30代19名（28.4%）、40代39名（58.2%）、50代8名（11.9%）、管理職10名（14.9%）、管理職外57名（85.1%）であった。

質問項目は、総合的な学習の好嫌度等に2問、実践上の困難な点と課題に1問、変容及びその変容の具体的な場面に関するものが教師と子どもに対してそれぞれ2問、総合的な学習のテーマについて1問、子どもに高めさせたい資質・能力に1問、実践上の課題（自由記述）に1問の合計10問である。（付録1）

3 調査の結果と考察

3-1 総合的な学習の時間の好嫌度・積極度



好嫌度は、図1をみると「とても良い」「良い」を合わせると8割以上になっており、「総合的な学習の時間」の新設については、教師は、おおむね好意的にとらえている。総合的な学習の時間は、新学習指導要領の完全実施から小学校では2年目を迎えている。これまでの実践から教員は全体的には好んでいるといっても良いであろう。教師の取り組み姿勢の積極度は、全体の2割弱が「大変積極的に取り組みたい」と回答をしている。「積極的に取り組みたい」をあわせると9割近くが積極的に取り組む姿勢を示している。尾上町立金田小学校や平賀町立柏木小学校も同様の結果が得られており、この傾向は中南地区のほぼ一般的な傾向と受けとめられる。

3-2 総合的な学習の時間を実践してみての困難な点

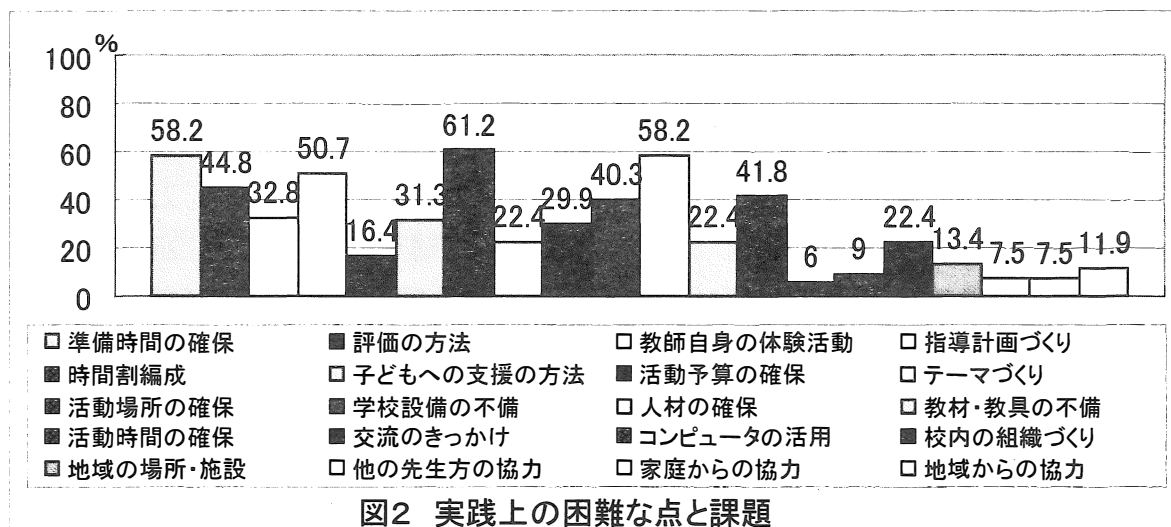


図2 実践上の困難な点と課題

実践上の困難な点は、図2から、「活動予算の確保」が最も高く6割を超え、次いで「準備時間の確保」と「人材の確保」がいずれも6割弱と高かった。逆に低かった項目は、「交流のきっかけ」が6.0%、「他の先生方の協力」と「家庭からの協力」が7.5%であった。学校外にでかけ様々な学習活動を行うためのバス代等の活動予算が必要である。中南地区は、弘前市のような都市部を抱えており、学校外活動をするためには十分な予算的措置が必要であり、そのように自由記述に記している学校がある。総合的な学習では、授業実践上の予算確保が課題と教師は認識している。「準備時間の確保」は、色々な場所に出かけ調べ確認する時間、発表のための準備時間、父母への働きかけ、児童の発表のための事前指導などの時間が必要なためと思われる。「人材の確保」は、ゲストティーチャーの手配、父母の応援の手配などであり、講師の都合で思うように人材が確保できないことも自由記述からうかがわれた。総合的な学習をそのねらいに即した有意義なものにするため、教師は「予算」「時間」「人材」を重要なものと認識している。

全体で割合が低かった項目は、「交流のきっかけ」、「他の先生方の協力」や「家庭からの協力」である。弘前市は、「時間割編成」が7.4%と割合が低くなっており、他の地域との違いが見られた。これは、2学期制を導入するなど時間割を柔軟に行っていることなどが考えられる。(付録2)

3-3 総合的な学習の時間を実践してみての教師及び児童の変容

3-3-1 教師の変容

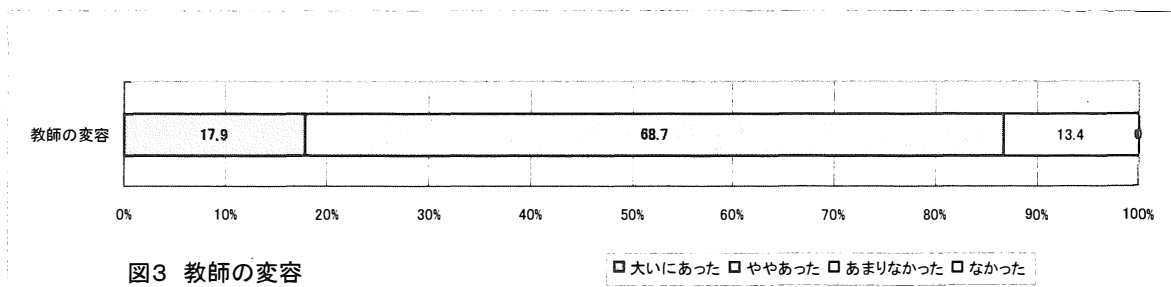
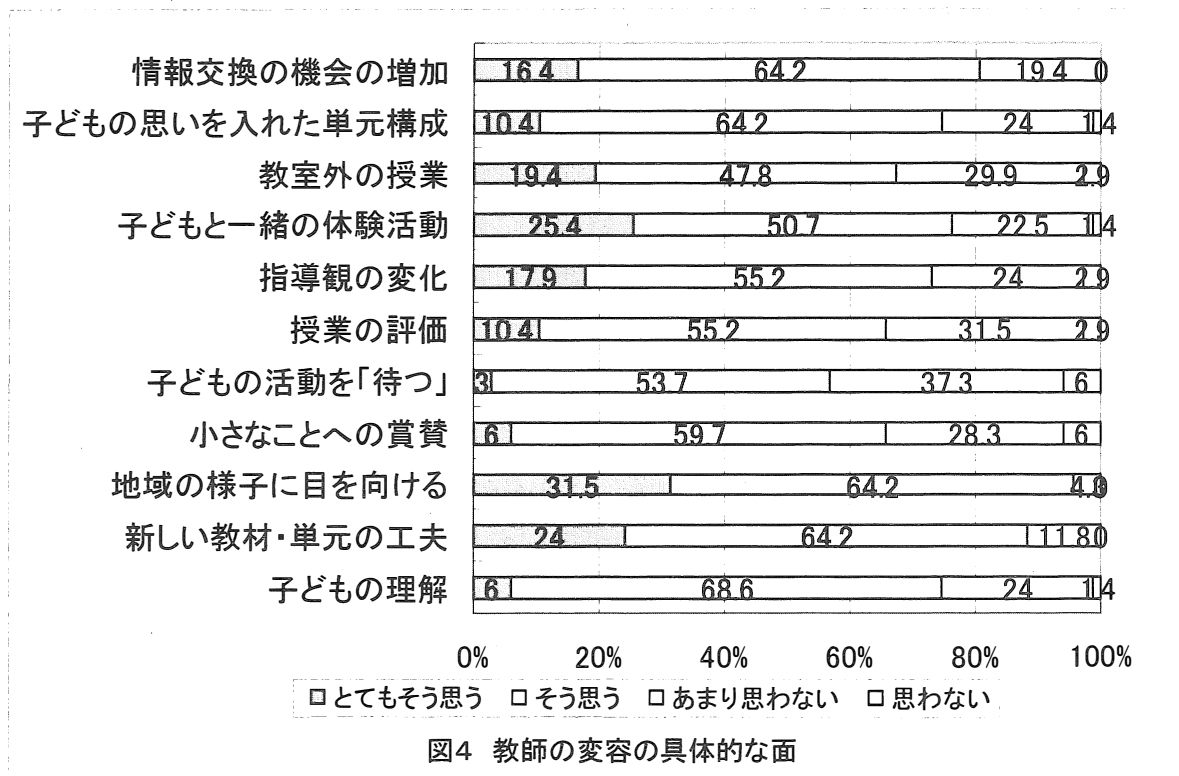


図3 教師の変容

総合的な学習の授業実践を通した、教師の変容態度を図3に示した。全体では、変容が「大いにあった」は2割、「ややあった」は、7割程度であり両者を合わせると9割弱であり、ほとんどの学校が総合的な学習によって、教師が変容したと捉えている。



「教師の変容の具体的な面」を図4に示した。「子どもや地域理解」と「授業の実践場面」について11項目を挙げ回答をしてもらった。全体で割合が高かったのは、「地域の様子に目を向ける」であり、「とてもそう思う」が3割、「そう思う」が7割程度で両者を合わせると9割以上と高い割合を示している。また、「新しい教材・単元の工夫」が、「とてもそう思う」が3割弱である。この場合も「そう思う」を合わせると9割近くになっている。「とてもそう思う」「そう思う」を合わせると、「情報交換の機会」は8割程度、「子どもと一緒に体験活動」は8割近くになっている。「地域の様子に目を向ける」は、教師自身が地域に対しての見方が広がることを示している。

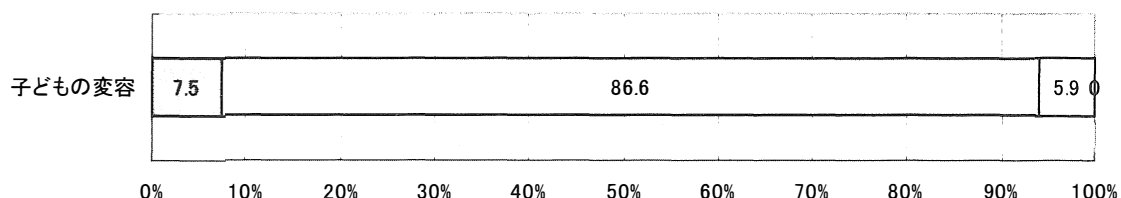
尾上町立金田小学校では、「リサイクル大作戦」等の実践によって地域に対する理解を深めており²⁾、教師自身が「地域の様子に目を向ける」事例である。また、「新しい教材・単元の工夫」では総合的な学習は、教科書がないので「新しい教材・単元の工夫」によって教材を開発していく積極性が必要になり、そのことが教師の指導観に良い面をもたらしていると考えられる。総合的な学習は教師の協働体制が重要であり、指導においてもティームティーチングなどの形態も取ることが多い。これらのことが、「情報交換の機会の増加」をもたらしている。また、教師が「子どもと一緒に体験活動」を肯定的に捉える割合が高いのは「子どもたちと一緒に体験的な活動をするのが楽しくなってきた」ということを意味している。

「子どもを「待つ」」は、授業が、子どもが中心なものよりも教師中心により進められているかどうかを見るものであり肯定的に認識する教師の割合が低かった。教師は子どもの学びを保障するという面から、より効果的な支援をしていく必要が出てくるものと思われる。「授業の評価」は、肯定的に捉える教師の割合は小さい。総合的な学習の評価が、教科のように試験の成績によって数値的に評価することはしないためと思われる。多くの学校は、研修等をしながら評価方法の開発に取り組んでおり、今後の実践によってより良い方法が提示されることが望まれる。

弘前市は、「地域の様子に目を向ける」の「とてもそう思う」の割合が、他の地域よりも高く48.2%であった。また、中津軽郡も、「地域の様子に目を向ける」の「とてもそう思う」

が20%、「そう思う」が80%で両者を合わせると、100%になっている。中津軽郡では、身近な地域資源を有効に活用していることが示唆している。(付録3)

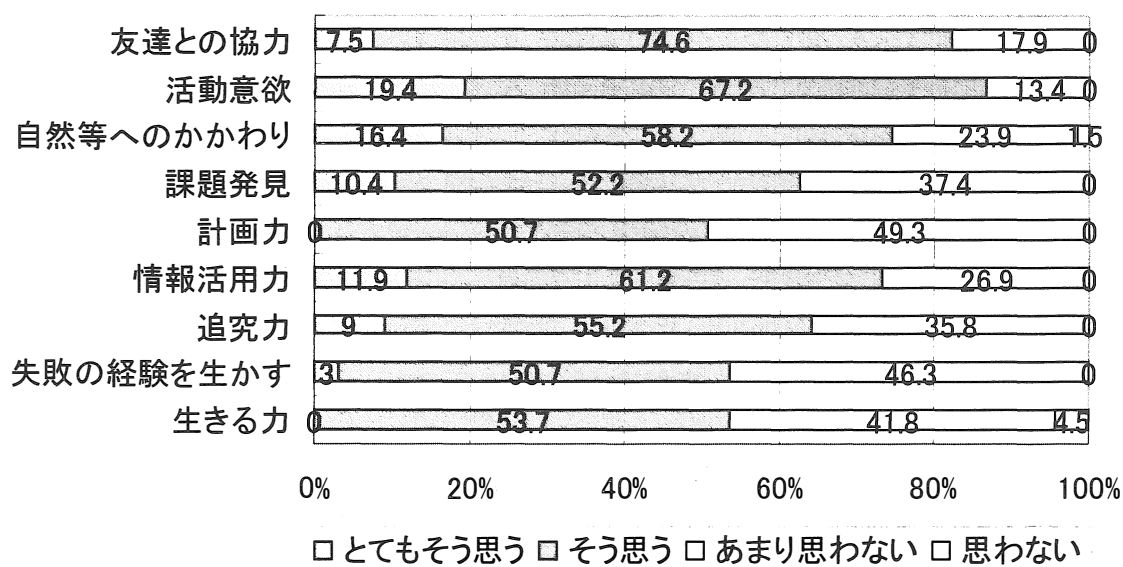
3-3-2 子どもの変容



□ 大変変化が見られる □ やや変化が見られる □ あまり変化が見られない □ 変化が見られない

図5 子どもの変容

「大変変化が見られる」と「やや変化が見られる」の両者を合わせると9割以上が子どもに変容があることを認めている。地域的な違いの面では、南津軽郡では、「あまり見られない」の割合がやや高く11.1%を示した。



□ とてもそう思う □ そう思う □ あまり思わない □ 思わない

図6 子どもの変容の具体的な面

「子どもの変容の具体的な面」について、9項目の回答を得た。全体をみると、割合が1番高かった項目は、「活動意欲」であった。「とてもそう思う」が2割弱、「そう思う」が7割近くなっている。両者を合わせた割合は9割近くにもなっている。次いで割合の高いのが、「友達との協力」で「とてもそう思う」が1割弱で、「そう思う」が7割強となっており、両者を合わせると8割以上になっている。これは、総合的な学習が、体験活動を重視しているため活動意欲が高まっていることを示している。総合的な学習では、児童の興味・関心を喚起させることが大切になるが、この結果から活動が良い方向へ進んでいることが分かる。「友達との協力」の割合も高いが、活動や発表などにおいての友達同士の学び合いができつつあるこ

とを示す。活動においては、縦割り班などの活動や学校間の交流を通しながら、友達との協力性も培われていることが分かる。具体的な例としては、平賀町立柏木小学校での全校縦割り班活動等がある⁵⁾。

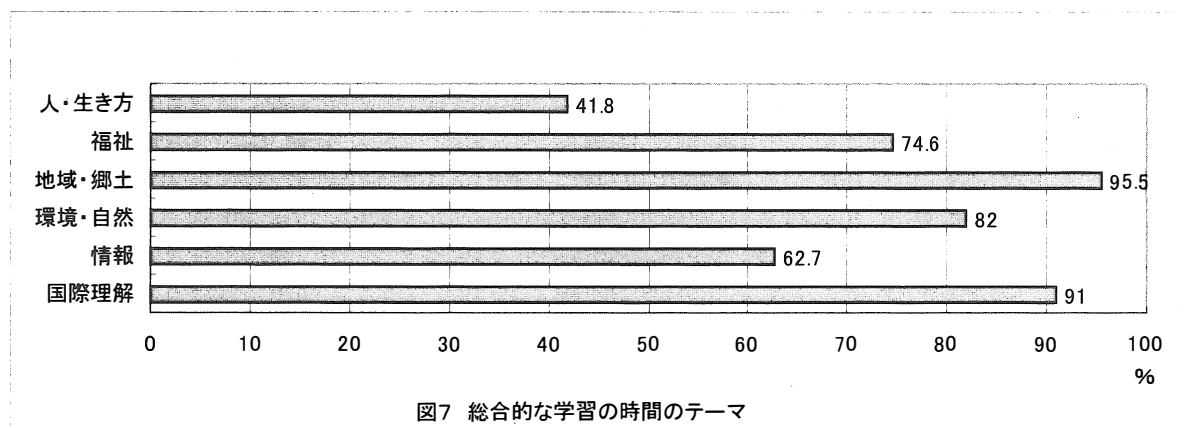
割合が低い項目は、活動の「計画力」や「生きる力」である。「計画力」は「とてもそう思う」が0であり、「そう思う」も5割位である。「生きる力」も割合が、「計画力」と同じ位である。「計画力」は、「自ら考え、主体的に問題を解決する」とことと関わってくることで、今後高めていく必要があろう。「生きる力」の育成は、長期的な視点から見ていかなければならないので、これからの実践がより重要となると思われる。

地域的に見ると、中津軽郡では、「自然等へのかかわり」の項目の割合が高かった。「とてもそう思う」は60%であり、「そう思う」は40%で両者を合わせると100%になっている。これは、豊かな自然を生かした学習を行っているためと思われる。特に、身近な「川」「米」「りんご」などを教材として総合的な学習を実践している³⁾ことが最近の調査で明らかになっている。(付録4)

3-4 総合的な学習の時間のテーマについて

「総合的な学習の時間の学習活動のテーマについて」(複数回答)を求めた。

その結果を図7に示す。



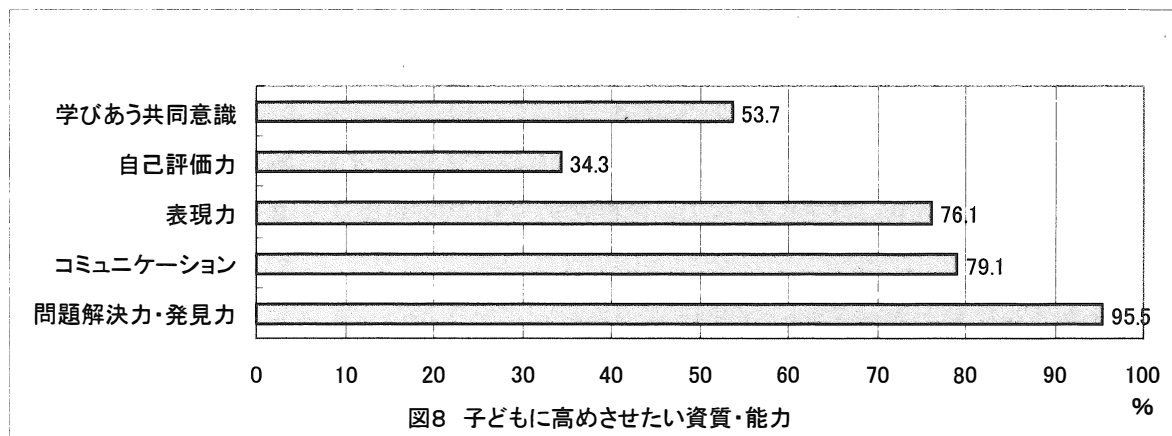
全体的に「地域・郷土」をテーマにしているのが多かった。割合は、ほぼ100%近い。次いで、「国際理解」が9割位と高くなっている。中南地区では、「地域・郷土」を総合的な学習で学習していることが多い。青森県教育庁中南教育事務所の平成13年度の「総合的な学習の時間」の取り組み状況調査で同様の結果を得ている⁶⁾。「情報」は6割位と低くなっている。

実践事例では、「地域や郷土」をテーマとしたものでは、藤崎町にある小学校では、江戸時代から明治中期までの町の主要産業であった藍染めに視点をあて、自分たちで藍を栽培し、染色することでふるさとの文化に親しむようにしている⁷⁾。弘前市の小学校では、地域の人をゲストティーチャーにして栽培や収穫活動を行い、6年生の製紙教室では、収穫したケナフから紙を作り、自分自身の卒業証書づくりを行っているところもある⁷⁾。平賀町立柏木小学校では、地域に伝わる伝統芸能の「荒馬踊り」を4年生が、地域の人から踊りを聞くことを通しながら地域に対する理解を深めている。「国際理解」をテーマとしたものでは、尾上町立金田小学校では、ロシアやイギリスなどの国際交流員を迎え、交流を通しながらの国際理解を図っている。また、中南地区では、ALTを学校に招いての英話に親しむ授業で行っている学校や外国の小学校との交流を深めている学校もある。「情報」については各学校が取り

組んでいるが、テーマとしては6割位と割合が低かった。これは、コンピュータそのものの学習をテーマとするのではなく、総合的な学習の時間における学びの道具として位置づけているためと思われる。

3-5 総合的な学習の時間で高めたい資質や能力について

「総合的な学習の時間で子どもに高めさせたい資質や能力について」（複数回答）を求めた。結果を図8に示す。



全体的には、「問題解決力・発見力」の割合が高くなっており9割を超えている。次いで、「コミュニケーション」が8割弱、「表現力」も8割に近い値を示している。逆に低かったのは、「自己評価力」が3割強であった。各地域ともに、総合的な学習のねらいと直接関わる資質・能力なので「問題解決力・発見力」を育成したいと考えている。「自己評価力」が低い割合なのは、評価方法が確立されていないことが関連している。

地域別に見ると、中津軽郡が「学びあう共同意識」の割合が100%と特に高くなっている。具体的な例として、岩木町立岩木小学校では、学びあう共同意識を高めるために「米」を取り上げ、学校田を有効に活用し、地域との連携を図りながら27年間にわたって勤労を通しながら学びあう共同意識の高揚を図っていることが聞き取り調査から分かった。

3-6 総合的な学習の時間を実践してみての課題等

「総合的な学習の時間で実践してみていること」に対しての自由記述での回答結果は次の通りである。3-5までの結果で示されていない特徴的な記述を中心に整理した。

積極的な取り組みについては、「学校で4年間を見通したテーマとねらいを設定している」や「課題発見の視点を見つけている」といったようなテーマや課題発見について学校独自での取り組み方を記述している学校が2校あり、総合的な学習に対しての積極的な姿勢が見られた。また、「教師のやる気が総合を支えているので、教師と子どもが共に学び悩みながら作り上げていく。」などのようなこれからの取り組み方や教師の姿勢について記述している学校も見られた。

反面、総合的な学習の時間により、「他教科へのしわ寄せがきている。総合の時間を教科へまわして欲しい」や「学力低下が心配である」、「各教科で発展的な学習をすれば、総合はなくてもよいのではないか」など、時数や学力低下の面で総合的な学習を考え記述している

のが4校見られた。総合的な学習によって、教科にしわ寄せがきている学校が見られている。また、「完全実施になり、やや教師の意欲を欠く」や「教師の意欲低下」など取り組み方に意欲低下があることを記入している学校が2校あった。「小学校と中学校や高校との取り組みに温度差がある」や「小学校間の取り組みに温度差」など学校と取り組み方の違いを記入している学校が2校あり、学校の実態によっての取り組み方の差が見られた。

回答の中にある、学力低下については、時間数で総合的な学習と教科学習が深く関わっている、相互の関連を考慮しながら基礎・基本の徹底を図っていく必要がある。また、学校の実態に合わせて教職員の協力体制を築き、教師の指導観の転換や意識改革を図っていくことも大切である。

4 まとめ

総合的な学習の時間についての好嫌度や積極度調査では、ほとんどの教師が新設について好意的に捉えていた。今後についても、85.8%が積極的に取り組みたい姿勢を示していることがわかった。また、多くの教師が、総合的な学習の実践によって指導観や自分自身の変容を感じている。86.6%の学校が、変容があったと回答をしている。「地域の様子に目を向けるようになった」は95.7%と高い割合を表し、「子どもたちと一緒に体験的な活動をするにより楽しくなってきた」は76.1%と比較的高い割合を表している。このことは、総合的な学習の時間が教育現場に受容されているといってもよいものと思われる。教師からみた子どもの変容においても、意欲・関心とも関わりがある「活動意欲が増した」が、86.6%と9割程度の学校が、子どもたちの学習意欲に顕著な変化があることを認めている。「地域・郷土」を学習している割合が最も高く、中南地区では地域と関係のあることを学習していることがわかった。高めたい資質や能力では、問題解決力・発見力を子どもたちに高めさせたいことがわかった。実践上の課題では、「予算の確保」、「準備時間の確保」や「人材の確保」などが挙げられる。また、各学校の取り組みの自由記述では、学力低下を心配する記述も見られた。

中南地区では、概ね総合的な学習を肯定的に捉えながら、津軽地方の豊かな自然を有効に活用しながら、ねらいに即し実践を行っていることが分かる。総合的な学習に対して、教師の意識に変容が見られ、子どもにも活動意欲が増すなどの変容が見られている。テーマなどでは、4年間を見通した計画を立てながら実践をしたり、課題発見の視点を見つけたりしているなどの積極的な取り組みや姿勢が見られている。伝統芸能を継承したり、学校田を有効活用するなど学校と家庭や地域社会との連携を重視した取り組みなどもある。学力低下を懸念する声もあるが、総合的な学習と教科学習との関連を大切にして、基礎・基本の徹底を図りながら特色ある学校づくりをさらに推進していく必要があろう。

5 おわりに

学習指導要領は平成15年12月に一部改正された。総合的な学習についても一層の充実を目指すために、「全体計画の作成」や「目標や内容を定めること」等が各学校において改正される予定である。総合的な学習の時間の新設により、教科の時数が削減されたことで学力低下を懸念する声もある。しかし、「生きる力」を育むために総合的な学習に寄せる期待も大きく、総合的な学習の時間と教科学習の相互補完も重要になってくる。

これからは、総合的な学習の時間と他の教科や領域との関係や学力との関係を調べたりすることや、中南地区だけではなく青森県全体の総合的な学習の時間の取り組み方や地域資源の活用の仕方などについても調べる必要があると思われる。

○引用文献

- 1) 日本経済新聞 2003. 9. 18
- 2) 渋川良夫(2002);「地域に関する教材開発を目指した総合的な学習の時間の意識調査」, 弘前大学教育学部附属教育実践総合センター研究員紀要1号, 通巻11号, 弘前大学教育学部附属教育実践総合センター, PP. 85.
- 3) 羽賀敏雄(2003);「学生による地域への教育支援の可能性と実践的指導力の基礎—青森県津軽地方中南地区および西北地区の公立小学校及び中学校教員の意識調査とともに—」, 弘前大学教育学部附属教育実践総合センター
- 4) 金井達蔵(1994);「中学校 関心 態度」—その理論と指導評価—, 図書文化社, PP. 26.
- 5) 渋川良夫(2001);「総合的な学習の時間」についての研究」, 弘前大学教育学部附属教育実践総合センター, PP 67—79
- 6) 平成14年度「中南の教育」(2002);青森県教育庁 中南教育事務所, PP. 15
- 7) 「学社融合推進モデル事業 実践事例集」;(2002), 青森県教育委員会 PP 31—41

○参考文献

- 1) 藤田静作(2002);「総合的な学習に関する基礎的・予備的考察(2)」, 秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要 第24号, PP. 11—21
- 2) 齋藤治(2002);「総合的な学習の時間」, 青森県学校教育センター 研究紀要, PP. 15—27
- 3) 高浦勝義;(1999)「総合学習の理論・実践・評価」, 黎明書房, PP. 9.
- 4) 小澤熹、佐藤三三、村山正明;「変革の時代の教育を探る」, 東信堂, PP 80—83.
- 5) 村川雅弘、小林毅夫(1999);「改訂 小学校学習指導要領の展開 総合的学習編」明治図書, PP 18—19.
- 6) 渋川良夫(2001);「小学校における総合的な学習と教科学習の関連についての研究」弘前大学大学院教育学研究科修士論文, PP 31.

付録1

総合的な学習の時間についてのアンケート（教師用）

◎ 下記の項目についてお答え下さい。

1 総合的な学習の時間が新しく設定されたことについて（1つに○をつけて下さい。）

- ① とても良いと思う。 ()
 ② 良いと思う。 ()
 ③ あまり良いとは思わない。 ()
 ④ 良くない。 ()

2 これからの総合的な学習の時間の取り組みについて（1つに○をつけて下さい。）

- ① 大変積極的に取り組みたい。 ()
 ② 積極的に取り組みたい。 ()
 ③ あまり積極的に取り組みたくない。 ()
 ④ 積極的に取り組みたくない。 ()

3 総合的な学習の時間の実践をしてみた際の困難な点（あてはまるものに○をつけて下さい。複数可）

- | | | | |
|-------------|-----|--------------|-----|
| ① 準備時間の確保 | () | ② 評価の方法 | () |
| ③ 教師自身の活動体験 | () | ④ 指導計画づくり | () |
| ⑤ 時間割編成 | () | ⑥ 子どもへの支援の方法 | () |
| ⑦ 活動予算の確保 | () | ⑧ テーマづくり | () |
| ⑨ 活動場所の確保 | () | ⑩ 学校設備の不備 | () |
| ⑪ 人材の確保 | () | ⑫ 教材・教具の不備 | () |
| ⑬ 活動時間の確保 | () | ⑭ 交流のきっかけ | () |
| ⑮ コンピュータの活用 | () | ⑯ 校内の組織づくり | () |
| ⑰ 地域の場所・施設 | () | ⑱ 他の先生方の協力 | () |
| ⑲ 家庭からの協力 | () | ⑳ 地域からの協力 | () |

*その他にあれば ご記入下さい

()

4 総合的な学習の時間での教師の変容について（1つに○をつけて下さい。）

- ① 大いにあった。 ()
 ② ややあった。 ()
 ③ あまりなかった。 ()
 ④ 全くなかった。 ()

5 教師の変容の具体的な面

（子ども・地域理解）

（1つに○をつけて下さい。）

とてもそう思う そう思う あまり思わない 思わない

- | | | | | |
|------------------------------------|-----|-----|-----|-----|
| ① 一人一人の子どもが理解 できるようになった。 | () | () | () | () |
| ② 自分で新しい教材や単元を 工夫するようになった。 | () | () | () | () |
| ③ 学校外や地域の様子に目を 向けるようになった。 | () | () | () | () |
| ④ 小さなことでもほめたり 受容できるようになった。 | () | () | () | () |
| ⑤ 子どもたちの活動の中で 「待つ」ことができるようになった。 | () | () | () | () |

付録1

とてもそう思う そう思う あまり思わない 思わない

- ⑥ 子ども個々の反応や活動の () () () ()
様子によって授業が評価できるようになった。

(授業の実践場面から)

(1つに○をつけて下さい。)

とてもそう思う そう思う あまり思わない 思わない

- ① 教える授業から学ばせる(活動 () () () ()
させる)授業へと指導観が変わった。
② 子どもたちと一緒に体験的な活動 () () () ()
をすることが楽しくなってきた。
③ 教室内よりも、教室外や学校外で () () () ()
授業を展開することが多くなってきた。
④ 子どもの思いや願いを組み入れな () () () ()
がら単元を構成できるようになった。
⑤ 先生同士の情報交換の機会が増えた。() () () ()

- 6 総合的な学習の時間による子どもの変容について (1つに○をつけて下さい。)

- ① 大変変化が見られる。() ② やや変化が見られる。() ③あまり見られない() ④見られない()

- 7 子どもの変容の具体的な面

(意欲・関心・態度面)

(1つに○をつけて下さい。)

とてもそう思う そう思う あまり思わない 思わない

- ① 友達と協力しようとする気持ちや () () () ()
態度が見られるようになった。
② 活動意欲が増した。 () () () ()
③ 自然や人・社会事象に積極的に () () () ()
かかわれるようになった。
④ 活動を進めるために、自分なりの () () () ()
課題を発見できるようになった。
⑤ 何かに取り組む前に計画ができる () () () ()
力がついた。
⑥ 必要な情報を活用できるよう () () () ()
なった。
⑦ 最後まであきらめずに追求を () () () ()
続けることができるようになった。
⑧ 失敗経験を次の活動に生かそうと () () () ()
するようになった。
⑨ 新学習指導要領でいわれている () () () ()
「生きる力」が身についた。

付録1

8 総合的な学習の時間の学習活動のテーマ等について

(学校や学級で行っているものについて、あてはまるものすべてに○をつけて下さい。複数可)

- ① 国際理解、英会話 ()
- ② 情報 ()
- ③ 環境、自然 ()
- ④ 地域、郷土 ()
- ⑤ 福祉、ボランティア ()
- ⑥ 人、生き方、ふれあい () その他 ()

9 総合的な学習の時間で子どもに高めさせたい資質や能力について。

(重要と思われるものにいくつでも○をつけて下さい。)

- ① 問題解決力・発見力 () ② コミュニケーション能力 ()
- ③ 表現力 () ④ 自己評価力 ()
- ⑤ 学びあう共同意識 ()

10 総合的な学習の時間で実践してみて考えていることがあればお書き下さい。

学校名

小学校

ご記入された方 (○で囲んで下さい)

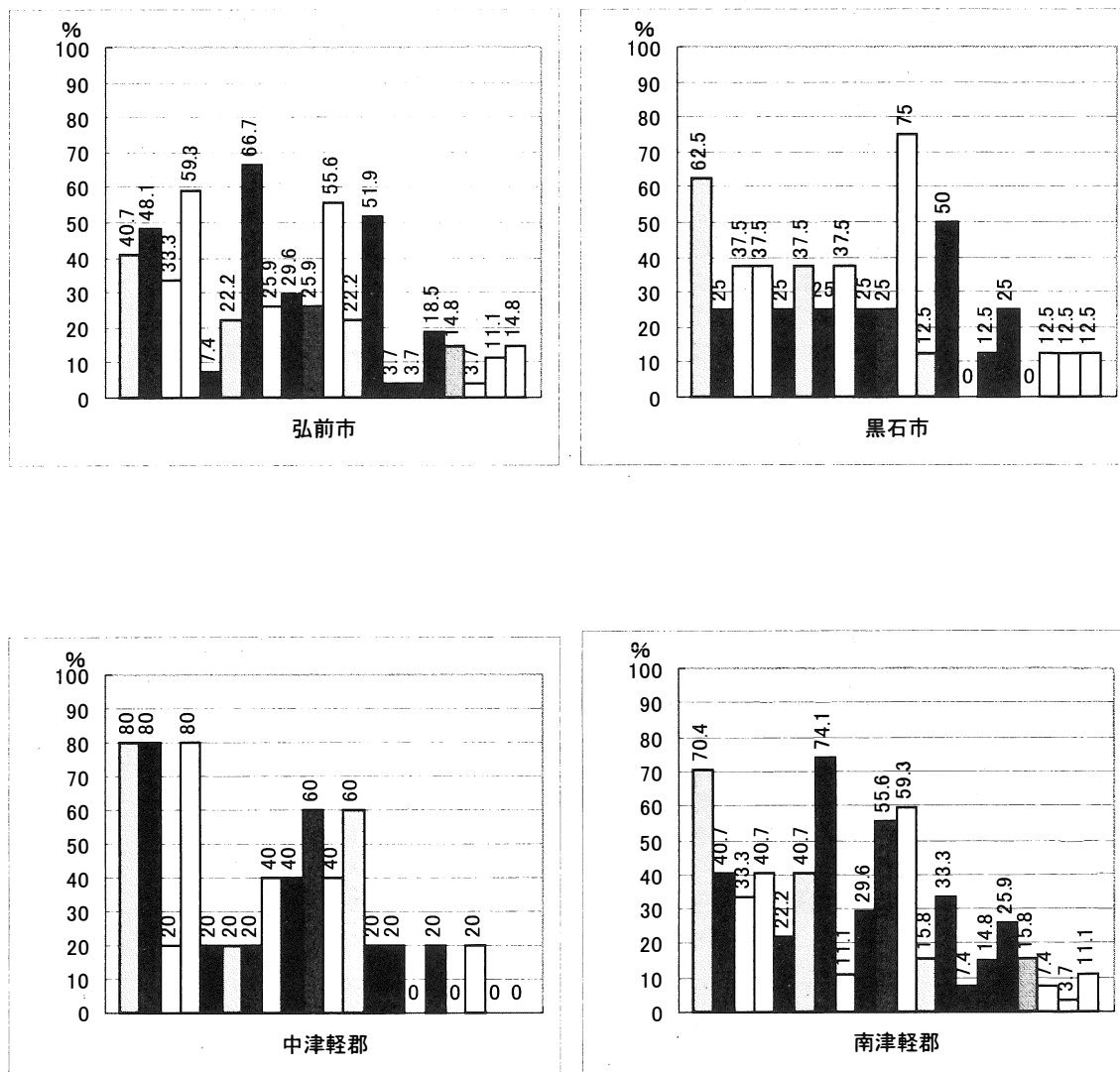
<年 代> 20代 30代 40代 50代

<職 名> 校 長 教 頭 教 諭 養護教諭 その他

* ご回答ありがとうございました。

付 録2

図2 実践上の困難な点と課題 <地域別>

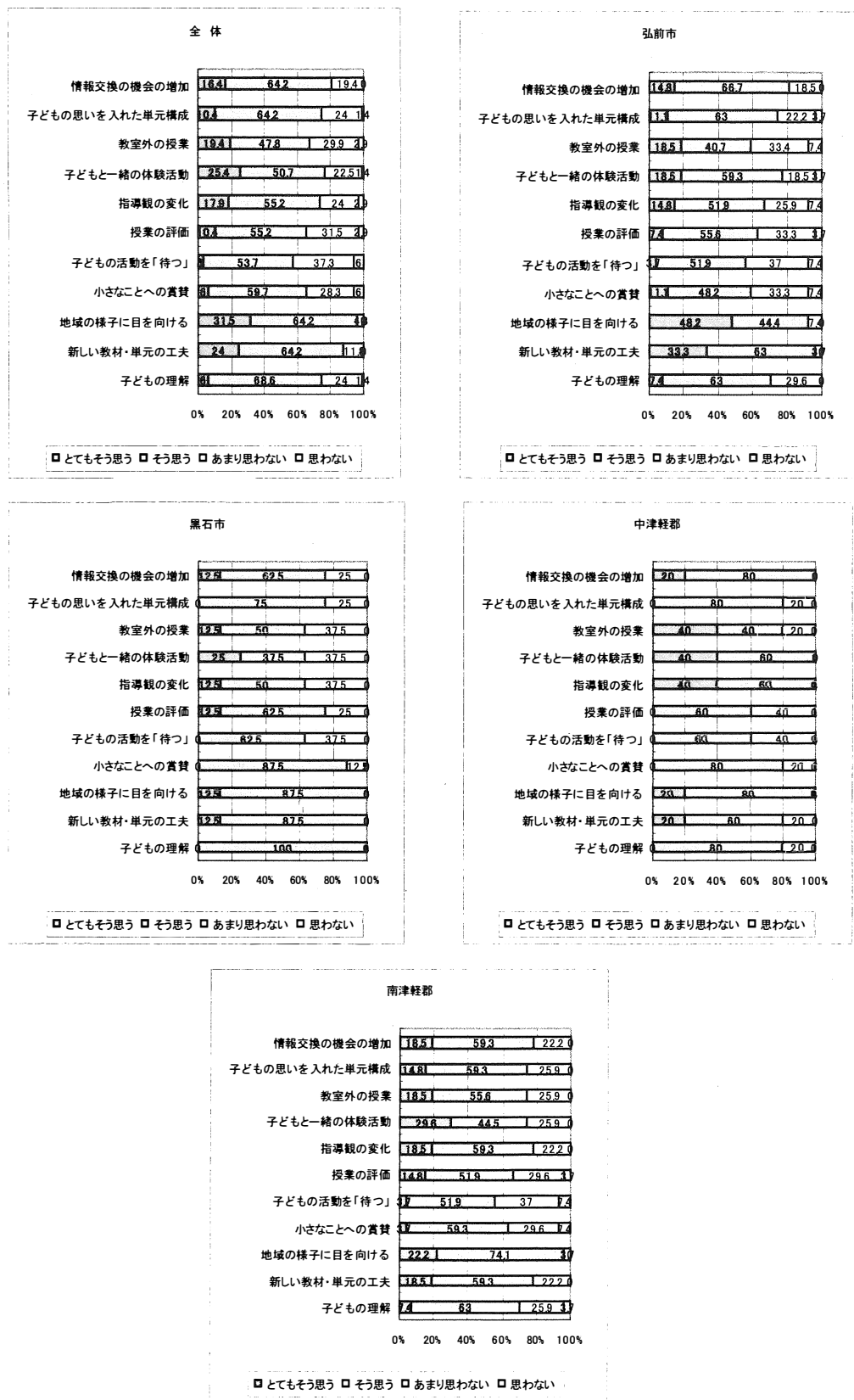


凡例

- | | | | |
|------------|--------------|-------------|------------|
| □ 準備時間の確保 | ■ 評価の方法 | □ 教師自身の体験活動 | □ 指導計画づくり |
| ■ 時間割編成 | □ 子どもへの支援の方法 | ■ 活動予算の確保 | □ テーマづくり |
| ■ 活動場所の確保 | ■ 学校設備の不備 | □ 人材の確保 | □ 教材・教具の不備 |
| ■ 活動時間の確保 | ■ 交流のきっかけ | ■ コンピュータの活用 | ■ 校内の組織づくり |
| □ 地域の場所・施設 | □ 他の先生方の協力 | □ 家庭からの協力 | □ 地域からの協力 |

付 録3

図4 教師の変容の具体的な面 <地域別>



付 録4

図6 子どもの変容の具体的な面 <地域別>

